

第三次みやき町総合計画 基本構想（案）

黄色・・・ 審議会でのご意見による修正箇所

青色・・・ 分野別団体ヒアリングや各課ヒアリング、幹事会等でのご意見及び事務局側の確認による修正箇所

令和4年6月20日時点

I 序論

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

現在、みやき町（以下「本町」といいます。）を取り巻く環境は、劇的に変化しています。新型コロナウイルス感染症による社会経済への影響のほか、直近の課題である脱炭素社会の構築を含めた持続可能な開発目標（SDGs）への対応、社会保障費の急増が予想される2040年問題など、取り組まなければならない課題が山積しています。これらの社会経済情勢の大きな変化や問題に対し、より適切かつ柔軟に対応すべく、新しい時代を見据えた、持続可能なまちづくりの基盤となる「第三次みやき町総合計画」（以下「第三次計画」といいます。）を策定します。

2 計画の構成、期間

第三次計画は、基本構想及び実行計画の2層構成とし、基本構想は、令和4（2022）年度～令和14（2032）年度の11年間を計画期間とします。

実行計画は、基本構想を具現化するための中期的な事業計画であり、基本構想の計画期間を前期、中期、後期の3つに区分し、前期は令和6（2024）年度、中期は令和10年度に数値目標や取組内容の検証と見直しを行い、後期の令和14（2032）年度に第三次計画の総括を行います。

■基本構想・実行計画の期間

	年度										
	令和4 (2022)年	令和5 (2023)年	令和6 (2024)年	令和7 (2025)年	令和8 (2026)年	令和9 (2027)年	令和10 (2028)年	令和11 (2029)年	令和12 (2030)年	令和13 (2031)年	令和14 (2032)年
基本構想	計画期間										総括
実行計画	前期		中期				後期				総括
	見直し		見直し								

第2章 社会の動きとみやき町の現状

1 社会潮流

(1) 人口減少と少子高齢化

現在わが国では、平成 20（2008）年を境として、人口減少の時代に突入しており、国立社会保障・人口問題研究所が示す将来人口推計では、令和 37（2055）年までには総人口が 1 億人を下回ると予測されています。出生数が減少し続けている一方で、令和 7（2025）年には団塊の世代が後期高齢者に達するなど、少子化・高齢化による人口構造の大きな変化が見込まれています。

また、東京をはじめとした大都市圏への人口集中も依然として進行しており、地方における人口減少に歯止めをかけるため、全国の自治体で移住・定住の促進や交流人口の増加に向け、地域資源を活用しながらまちの魅力を向上し、広く発信する取組が進められています。

【みやき町の現状】

人口動態を見ると、平成 27（2015）年以降、自然動態は、死亡数が出生数を上回っており、毎年 100 人台の自然減となっています。社会動態は、転入数が転出数を上回り、一貫して社会増となっており、特に平成 30（2018）年以降は大きく増加しています。

住民基本台帳における人口の推移をみると、平成 28（2016）年から平成 30（2018）年にかけて減少していますが、それ以降は増加傾向にあります。また、校区別の年齢 3 階級人口の推移をみると、いずれの校区においても年少人口が増加傾向にあります。また、いずれの校区においても老年人口も同様に若干増加傾向にあります。生産年齢人口については、中原校区、北茂安校区で横ばい、三根校区では減少傾向がみられますが、その人口比率をみると、いずれの校区でも減少傾向がみられます。

人口推移（P15 参照）をみると、平成 27（2015）年から令和 2（2020）年にかけて人口増となっており、令和 2（2020）年の人口実績は 25,511 人（出典：令和 2 年国勢調査（年齢不詳含む））で、第二次計画、第 2 期総合戦略策定時の推計値を上回り、人口減少が抑制されていることがうかがえます。

また、本町のアンケート調査結果では、みやき町への定住意向（「住み続ける」と回答した人の割合）は 7.0 ポイント増加しています。本町の誇る資源や魅力を精査し、住民にとって魅力ある豊かな暮らしを創出できる定住促進施策に取り組んでいくことが重要です。

■人口動態（単位：人）

	出生	死亡	自然動態	転入	転出	社会動態
平成 27 年	178	329	-151	1,055	986	69
平成 28 年	200	297	-97	923	846	77
平成 29 年	182	352	-170	909	847	62
平成 30 年	217	348	-131	1,286	933	353
令和元年	193	328	-135	1,160	976	184
令和 2 年	196	310	-114	1,038	804	234

出典：みやき町資料

■校区別年齢 3 階級人口（単位：人）

		平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
中原 校区	年少人口	993	978	969	1,016	1,063	1,104	1,157
	生産年齢人口	4,518	4,395	4,337	4,412	4,398	4,425	4,420
	老年人口	2,535	2,605	2,629	2,676	2,705	2,720	2,718
	小計	8,046	7,978	7,935	8,104	8,166	8,249	8,295
北茂安 校区	年少人口	1,287	1,269	1,276	1,341	1,368	1,391	1,419
	生産年齢人口	5,860	5,724	5,645	5,639	5,633	5,646	5,637
	老年人口	3,548	3,659	3,681	3,697	3,704	3,758	3,784
	小計	10,695	10,652	10,602	10,677	10,705	10,795	10,840
三根 校区	年少人口	781	810	828	858	881	881	842
	生産年齢人口	3,745	3,762	3,716	3,657	3,564	3,486	3,409
	老年人口	2,263	2,297	2,305	2,300	2,319	2,349	2,344
	小計	6,789	6,869	6,849	6,815	6,764	6,716	6,595
合計		25,530	25,499	25,386	25,596	25,635	25,760	25,730

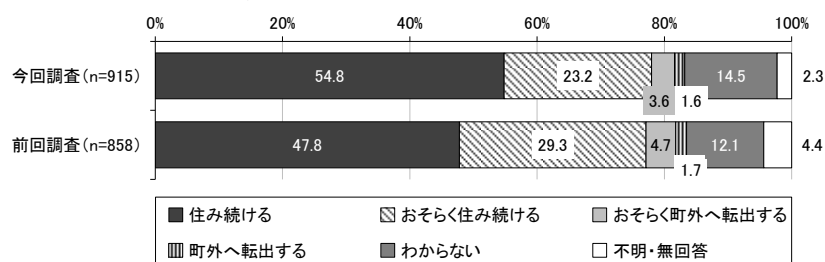
出典：みやき町資料

■校別年齢3階級人口割合（単位：％）

		平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和 2年	令和 3年	令和 4年
中原 校区	幼年人口	12.3	12.3	12.2	12.5	13.0	13.4	13.9
	生産年齢人口	56.2	55.1	54.7	54.4	53.9	53.6	53.3
	老年人口	31.5	32.7	33.1	33.0	33.1	33.0	32.8
北茂安 校区	幼年人口	12.0	11.9	12.0	12.6	12.8	12.9	13.1
	生産年齢人口	54.8	53.7	53.2	52.8	52.6	52.3	52.0
	老年人口	33.2	34.4	34.7	34.6	34.6	34.8	34.9
三根 校区	幼年人口	11.5	11.8	12.1	12.6	13.0	13.1	12.8
	生産年齢人口	55.2	54.8	54.3	53.7	52.7	51.9	51.7
	老年人口	33.3	33.4	33.7	33.7	34.3	35.0	35.5

出典：みやき町資料

■定住意向について（「あなたは、これからもずっとみやき町に住み続ける予定ですか。」）



※前回調査では「おそらく町外へ転出する」は「おそらく転居する」、
「町外へ転出する」は「転居する」の選択肢

出典：総合計画策定のためのアンケート調査

(2) 地域共生社会の実現

さまざまな価値観を持つ人々の人権や多様性を尊重し、すべての人が参画し、能力を発揮することができる社会づくりが求められています。国においては、差別の解消や女性の活躍などに向けた法整備を行うとともに、多様な主体が参画し、つながることで、暮らし・生きがい・地域を共に創っていく「地域共生社会」の実現に向けた取組が進められています。

【みやき町の現状】

本町は、中原・北茂安・三根の3つの校区からなり、校区ごとの活動は独自性を反映しており、賑わいをみせています。

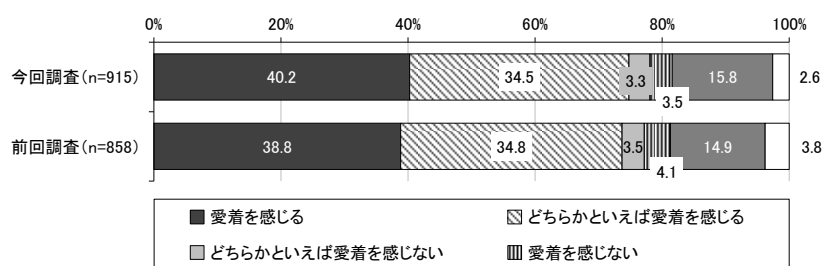
全国的に地域とのつながりの希薄化が課題となっている中、本町のアンケート調査結果では、前回調査（平成27年）と同様、7割以上の方がみやき町に「愛着を感じる」「どちらかといえば愛着を感じる」と回答しており、各種ワークショップでも、町の「いいところ」として良好な近所付き合いや地域とのつながりを挙げる意見が多数ありました。

一方で、本町においても高齢化は進んでいます。また、他市町から転入する世帯も多い中で、今後いかに地域のつながりを維持し、コミュニティを創造するかが課題となっています。

災害時などにおける地域のつながりや支え合いの大切さが再認識されている中、行政と住民、団体、事業者などの協働による取組を一層強化し、それぞれが役割分担しながら、地域の課題解決に向け取り組んでいくことが重要です。

誰もが地域社会に参画でき、活躍するためには、個人が持つ特性にかかわらず人権が尊重され、平等に社会に参画できるよう環境を整えることが大切です。多文化共生社会や地域共生社会が実現されるよう、ほかの誰かと繋がり、全ての人々が地域社会で活躍できる環境を整えることが必要です。

■みやき町に愛着を感じているか。



出典：総合計画策定のためのアンケート調査

(3) 経済情勢と働く環境の変化

わが国の経済情勢は長期的に厳しい状況が続いており、低成長率の傾向が定着している状況に、新型コロナウイルス感染症による需要喪失という経済的影響が加わり深刻なものとなっています。一方、大部分の産業において人手不足が問題となっている中、有効求人倍率は上昇傾向にありましたが、契約社員やパート・アルバイトといった非正規雇用者の解雇など、雇用状況の大きな変化がみられます。

また、平均寿命の延伸により「人生 100 年時代」を迎えた我が国では、若い世代は勿論、働く意欲がある高齢者がその能力を十分に発揮できる雇用環境を整備し、少子化と長寿化に対応した経済社会システムを構築することが重要となっています。

さらに、近年は働き方改革の推進やライフスタイルの変容により、女性が活躍できる環境の整備やワーク・ライフ・バランスの取れた働き方の重要性も高まっています。性別や年齢、住んでいる場所によらない、自分らしい仕事と暮らしの両立ができる環境の整備が求められています。

【みやき町の現状】

産業別就業者数は令和 2 (2020) 年の国勢調査では、「製造業」「医療・福祉」「卸売業・小売業」の合計が 5,741 人となっており、全就業者数 (11,670 人) の 5 割を占めています。また、平成 27 (2015) 年と比較すると、「製造業」「医療・福祉」で就業者が増加しています。

産業の中で、雇用力が最もあるのは「医療業」となっており、次いで、「社会保険・社会福祉・介護事業」、「食料品製造業」と続いています。一方、稼ぐ力が最もあるものは「ゴム製品製造業」、次いで、「非鉄金属製造業」、「生産用機械器具製造業」、「鉄鋼業」と続いています。

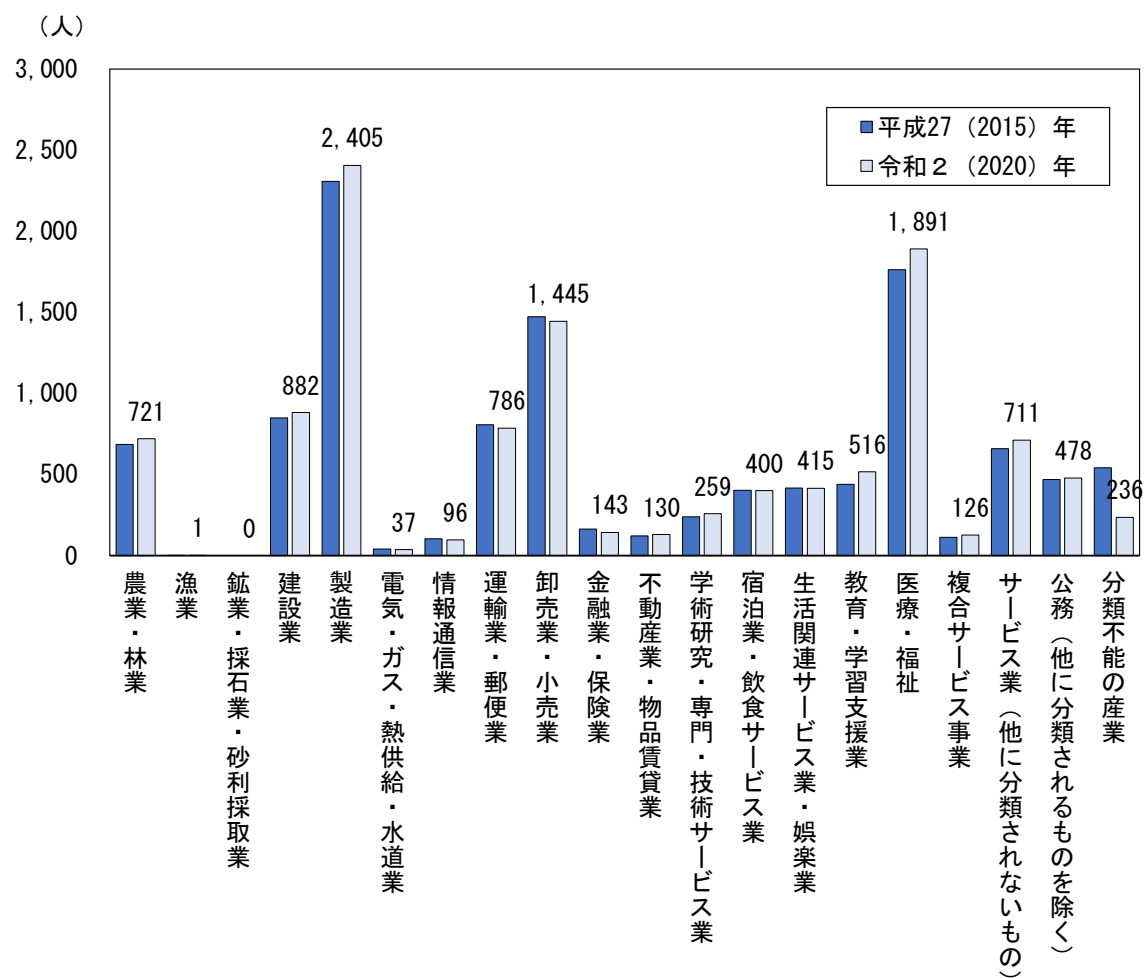
事業所従業者数を近隣市町（鳥栖市/神崎市/吉野ヶ里町/基山町/上峰町）と比較すると、鳥栖市、神崎市に次いで 3 番目に多く、平成 26 (2014) 年から平成 28 (2016) 年にかけての増加率は吉野ヶ里町に次いで 2 番目に高くなっています。

一方で、本町のアンケート調査結果で産業分野の満足度・重要度を見ると、農業、商業は、平均よりも満足度が低く、重要度が高い項目となっています。また、前回調査結果と比較しても、わずかに重要度が上昇しており、農業・商業振興への期待が高まっているといえます。

地域経済の活性化を図るためには、農業、商業、工業、観光などの地域産業の振興を図り、企業誘致の推進を含め安定した雇用環境の整備と賑わいを創出していくことが重要です。そのためにも町内にあるさまざまな資源を精査し、効率的かつ効果的な活用のあり方を検討する必要があります。

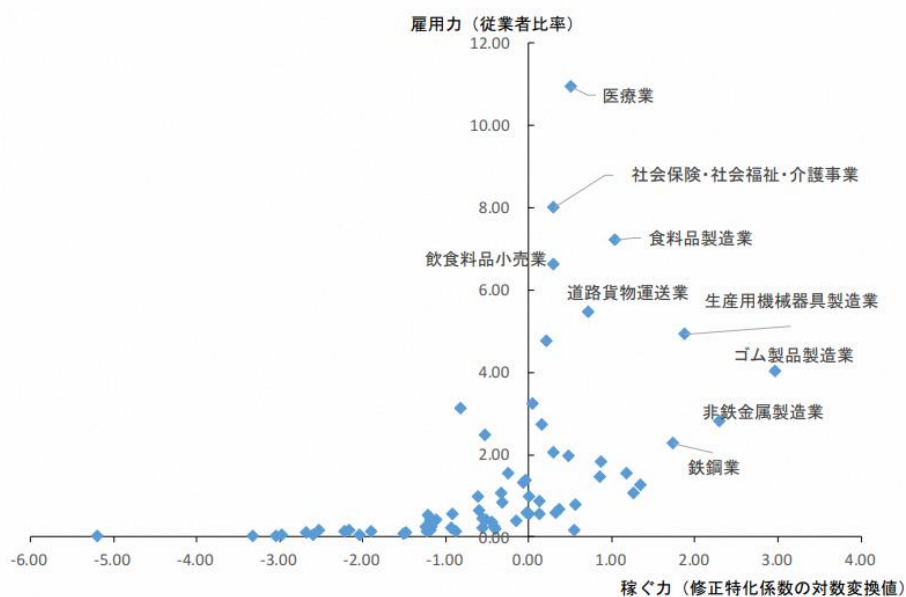
それぞれの産業分野で対策を強化することに加えて、相互の連携を強めることにより町の特色を発揮した新たな取組を始めることが求められています。

■就業者の状況（みやき町）



出典：国勢調査

■雇用力（雇用割合）と稼ぐ力（特化係数）の状況（みやき町）



※特化係数・修正特化係数の対数変換値とは、ある地域の特定の産業の相対的な集積度、強みを見る指数

出典：経済センサス

■事業所従業者数の推移

単位：人	平成21年	平成24年	平成26年	平成28年	平成28年/ 平成26年
	2009	2012	2014	2016	2016/2014
みやき町	8,701	8,966	9,143	9,402	102.8%
鳥栖市	38,892	37,279	39,557	40,434	102.2%
神埼市	10,554	9,952	10,443	10,144	97.1%
吉野ヶ里町	7,540	7,209	6,678	7,115	106.5%
基山町	7,036	6,861	7,535	7,634	101.3%
上峰町	4,318	4,275	4,763	4,537	95.3%

■事業所数の推移

単位：事業所	平成21年	平成24年	平成26年	平成28年	平成28年/ 平成26年
	2009	2012	2014	2016	2016/2014
みやき町	894	876	905	871	96.2%
鳥栖市	3,064	2,981	3,134	3,106	99.1%
神埼市	1,227	1,145	1,163	1,124	96.6%
吉野ヶ里町	499	462	477	478	100.2%
基山町	615	590	607	616	101.5%
上峰町	356	338	375	366	97.6%

出典：経済センサス

■みやき町のまちづくりの満足度・重要度

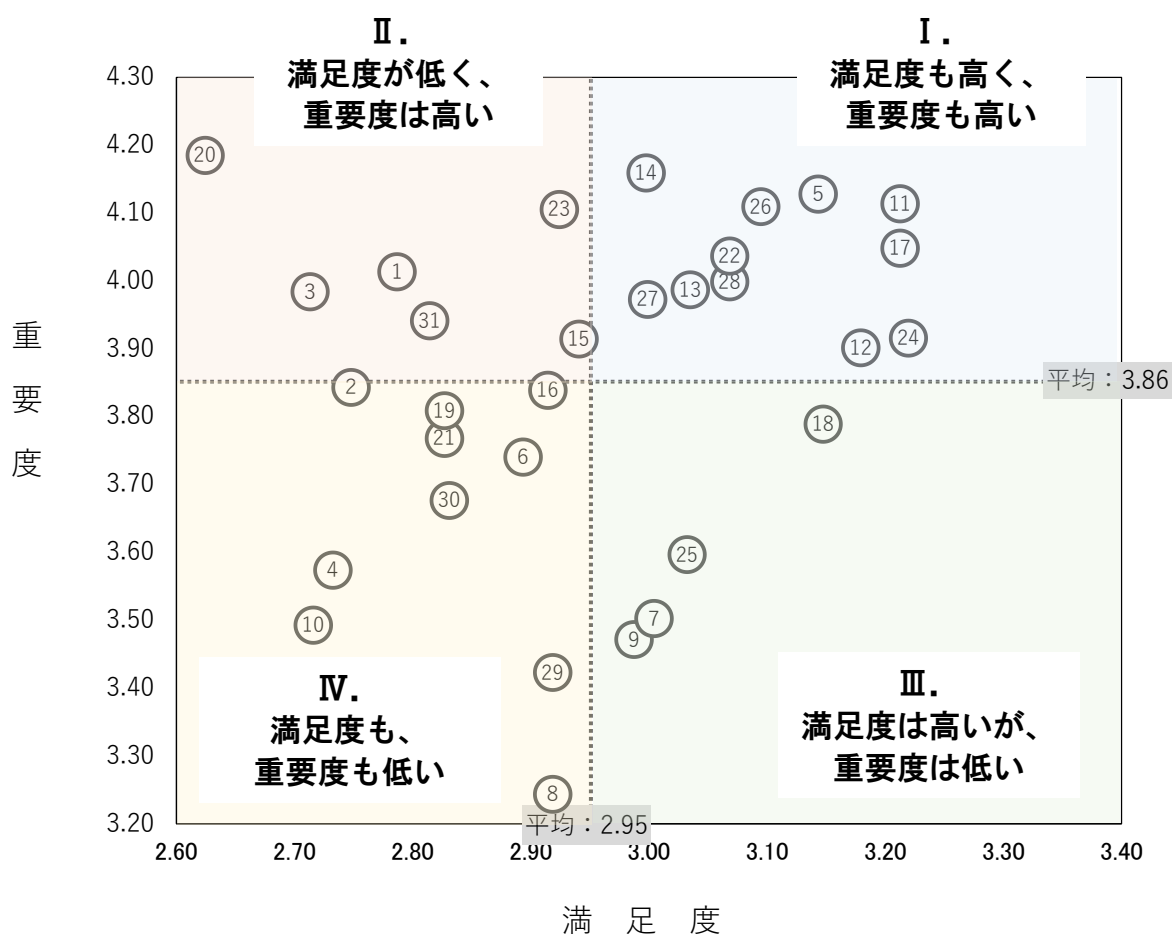
今回調査	満足度	重要度
町の取り組み 31 項目の平均値	2.95	3.86
1. 【農業】に関する施策	<u>2.79</u>	<u>4.02</u>
2. 【工業】に関する施策	<u>2.75</u>	3.85
3. 【商業】に関する施策	<u>2.72</u>	<u>3.99</u>
4. 【観光】に関する施策	<u>2.73</u>	3.58

前回調査	満足度	重要度
町の取り組み 37 項目の平均値	2.94	3.86
13. 絆づくりで意欲あふれる農業のまち【農業】	<u>2.85</u>	3.83
14. 次世代を切りひらく新産業のまち【工業】	<u>2.57</u>	<u>4.00</u>
15. 身近なサービスが充実したまち【商業】	<u>2.76</u>	3.79
16. 資源を活かし楽しさを発信するまち【観光】	<u>2.77</u>	3.61

※満足度の下線は平均よりも満足度が低い項目。重要度の下線は、平均よりも重要度が高い項目

出典：総合計画策定のためのアンケート調査

■みやき町のまちづくりの満足度・重要度



	満足度	重要度		満足度	重要度
1. 【農業】に関する施策	2.79	4.02	17. 【子育て支援】に関する施策	3.22	4.06
2. 【工業】に関する施策	2.75	3.85	18. 【青少年健全育成】に関する施策	3.14	3.80
3. 【商業】に関する施策	2.72	3.99	19. 【都市計画】に関する施策	2.83	3.80
4. 【観光】に関する施策	2.73	3.58	20. 【交通環境】に関する施策	2.62	4.20
5. 【教育】に関する施策	3.14	4.14	21. 【情報通信技術】に関する施策	2.83	3.80
6. 【生涯学習】に関する施策	2.89	3.76	22. 【上下水道】に関する施策	3.07	4.04
7. 【スポーツ】に関する施策	3.00	3.51	23. 【環境保全】に関する施策	2.92	4.11
8. 【文化芸術】に関する施策	2.92	3.25	24. 【環境衛生】に関する施策	3.22	3.93
9. 【歴史伝統】に関する施策	2.99	3.48	25. 【生活環境】に関する施策	3.04	3.61
10. 国際・地域間交流に関する施策	2.72	3.51	26. 【防犯】に関する施策	3.09	4.12
11. 【健康づくりの基盤整備】に関する施策	3.21	4.13	27. 【交通安全】に関する施策	3.00	3.98
12. 【健康づくり】に関する施策	3.18	3.91	28. 【消防・防災】に関する施策	3.07	4.03
13. 【地域福祉】に関する施策	3.04	4.00	29. 【コミュニティ・住民参画】に関する施策	2.92	3.43
14. 【高齢者福祉】に関する施策	3.00	4.17	30. 【情報公開】に関する施策	2.83	3.69
15. 【障がい者(児)福祉】に関する施策	2.94	3.93	31. 【行財政】に関する施策	2.81	3.95
16. 【ひとり親家庭・低所得者福祉】に関する施策	2.91	3.85	平均	2.95	3.86

出典：総合計画策定のためのアンケート調査

(4) 脱炭素・循環型社会への対応

化石燃料の大量消費や世界的な人口増加等により、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量が増加しています。地球温暖化問題は、生態系や生物多様性、食料や健康等、世界中のあらゆる場所に影響を及ぼす問題であり、今後の世界の持続可能性の確保のため、「持続可能な開発目標」(SDGs)の考えが重要となっています。

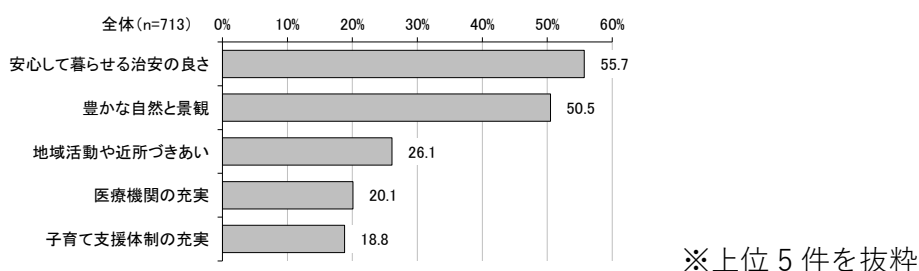
特に、生態系への影響は病原体の伝播と関連があることが指摘されており、未知のウイルス等による感染症の感染拡大を未然に防ぐという点でも、今までの社会経済活動のあり方を見直し、食やエネルギーの地産地消をはじめ、衣食住などのライフスタイルの変革による脱炭素・循環型社会の実現を目指す必要があります。

【みやき町の現状】

本町のアンケート調査結果では、定住意向ありの人が感じるみやき町の魅力は、「安心して暮らせる治安の良さ(55.7%)」に次いで、「豊かな自然と景観(50.5%)」が高くなっています。また、住民ワークショップでは、自然の豊かさを町の「いいところ」に挙げる声が多く寄せられており、住民が誇りに思う地域資源の一つになっています。

美しく豊かな水と緑に恵まれたみやき町の自然環境を守るため、町を挙げて省エネルギー・省資源対策の取組を進めると同時に、再生可能エネルギーの導入や利用促進を行う等、脱炭素社会に向けた積極的な取組が求められています。また、温暖化などの地球規模の環境問題を身近なものとして捉え、自然と共生した持続可能な脱炭素・循環型のまちづくりを進めていくことが必要です。

■あなたが思う、みやき町の魅力は何ですか。(定住意向を問う設問において「住み続ける」「おそらく住み続ける」に回答した方が対象)



出典：総合計画策定のためのアンケート調査

(5) 安全・安心への意識の高まり

近年、地震や台風をはじめとした大規模な自然災害が全国で頻発しており、防災・減災への意識が高まっています。国においては、国土や経済、暮らしが災害などにより致命的な損傷を負わない強さと、速やかに回復するしなやかさを備えた社会の仕組みを構築していく「国土強靱化」の取組が進められています。

また、自然災害だけでなく、子どもや高齢者を狙った犯罪の発生、感染症の流行、交通事故など、さまざまな分野における危険への意識も高まっており、危機管理体制の充実と、犯罪や事故のない安全な社会づくりが求められています。

【みやき町の現状】

令和3(2021)年8月豪雨災害では、記録的大雨により、みやき町でも土砂崩れや民家・事業所の浸水、各地域で河川の増水や土砂災害に伴う道路の損壊などの被害が発生しています。

また、犯罪(刑法犯)認知件数や交通事故発生は、平成28(2016)年以降減少傾向にあり、犯罪率は全国的な水準より低く推移しているなど、安全・安心な住環境が町の特性といえます。

一方で、高齢者がかかわる犯罪、交通事故、空き家の増加による治安悪化、地域活動の停滞による自主防災・防犯機能の低下などの課題が今後懸念されます。

安全・安心な暮らしの実現のためには、日ごろから備えるという意識を住民一人ひとりが持ち、地域における防犯・防災力の底上げが必要です。また、何気ない日常生活が守られるよう、国・県・町が一体となって、防災・減災体制を強化し、施策を講じる必要があります。

■大雨による被害状況等

	平成30年7月	令和元年7月	令和元年8月	令和2年7月	令和3年8月
総雨量	488.0 mm (7/5~7) 3日間	391.0 mm (7/19~22) 4日間	459.0 mm (8/26~31) 6日間	896.0 mm (7/7~14) 8日間	1162.0 mm (8/11~19) 9日間
最大時間雨量	45.0 mm	53.0 mm	49.0 mm	66.0 mm	41.0 mm
24時間最大雨量	279.0 mm	335.5 mm	343.0 mm	308.0 mm	409.0 mm
最大日雨量	346.0 mm	267.0 mm	185.0 mm	245.0 mm	393.0 mm
人的被害	0名	0名	0名	0名	0名
住家被害	19棟	0棟	0棟	1棟	90棟
(うち半壊)	(0棟)	(0棟)	(0棟)	(0棟)	(1棟)
(うち床上浸水)	(0棟)	(0棟)	(0棟)	(0棟)	(7棟)
(うち床下浸水)	(19棟)	(0棟)	(0棟)	(1棟)	(82棟)
道路被害	0件	0件	0件	0件	2件
河川被害	記録なし	3件	2件	2件	1件
土砂被害	7件	0件	0件	1件	15件
農産物、施設・機械被害	4.5 ha 0千円	30.9 ha 0千円	43.0 ha 540千円	326.7 ha 1,030千円	1353.9 ha 22,770千円

出典：みやき町資料

■犯罪認知件数と交通事故発生件数の推移

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
	2015	2016	2017	2018	2019
犯罪認知件数【みやき町】(件)	123	149	133	109	111
犯罪率【みやき町】※	487.8	592.4	527.2	429.6	437.3
犯罪率【佐賀県】※	653.8	616.1	527.2	438.1	418.1
犯罪率【全国】※	864.7	784.8	722.2	646.4	593.3
交通事故発生件数【みやき町】(件)	282	225	223	179	138

※犯罪率：人口 10 万人あたり

出典：さが統計館「佐賀県統計年鑑」

（6）情報通信技術の普及と新たな展開

情報通信技術（ICT）の飛躍的な発達と、情報通信機器の普及・多様化により、人々の生活、経済活動、サービス、社会の仕組みなどが大きく変化する中、近年は、^{※1}IoT や^{※2}AI などデジタル技術^{※3}5Gの推進が注目されています。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、在宅勤務（テレワーク）やWEB（オンライン）会議の利用が広く普及するとともに、今後は、医療、福祉、教育、産業、商工業、行政などあらゆる分野におけるデジタル化が進むことで、今以上に便利で効率的で新たな価値がもたらされる、ライフスタイルの新しいステージである^{※4}“Society5.0”への移行が期待されています。

【みやき町の現状】

全国的な人口減少と少子高齢化が進行する中で、特に福祉分野における負担増と人材不足が大きな問題として認識されており、デジタル技術の活用による課題解決が大きく期待される所です。本町では、令和3（2021）年度に「自治体デジタル・トランスフォーメーション（^{※5}DX）」の推進を目的とした企業との連携協定を締結し、デジタル技術やデータの活用により、行政サービスにおける住民の利便性向上や地域社会の発展を目指しています。

今後は、大学や民間企業等との連携を図り、新技術について動向を探るとともに、特に効果が大きいと想定される分野から優先的に技術を活用していくことが重要です。

※1:IoT

「Internet of Things」の略で、従来インターネットに接続されていなかったさまざまなモノ（センサー機器、駆動装置（アクチュエーター）、住宅・建物、車、家電製品、電子機器など）が、ネットワークを通じてサーバーやクラウドサービスに接続され、相互に情報交換をする仕組み。

※2:AI

「Artificial Intelligence」の略で、人工知能のこと。人間の脳が行っている知的な作業をコンピューターで模倣したソフトウェアやシステムのこと。

※3:5G

「5th Generation」の略で、「第5世代移動通信システム」を意味する。「高速大容量」「高信頼・低遅延通信」「多数同時接続」という特徴を持つ。DX実現の基盤とされるシステム。

※4:Society5.0（ソサエティー5.0）

サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。

[Society1.0:狩猟、Society2.0:農耕、Society3.0:工業、Society4.0:情報]

※5:DX

「Digital Transformation」の略で、情報通信技術の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。

(7) 持続可能な行財政運営の推進

人口の東京一極集中が進む一方で、地方の市町村では、人口減少による自治体の歳入減と並行し、高齢化の進展による社会保障費用の増大、老朽化の進む公共建築物やインフラの整備・改修等による歳出の増加が予想されます。更に、感染症の流行等、想定外に起きる事態による歳入減も考えられ、行財政の継続的な運営をおびやかすような、困難な状況に直面するリスクも高まっています。

【みやき町の現状】

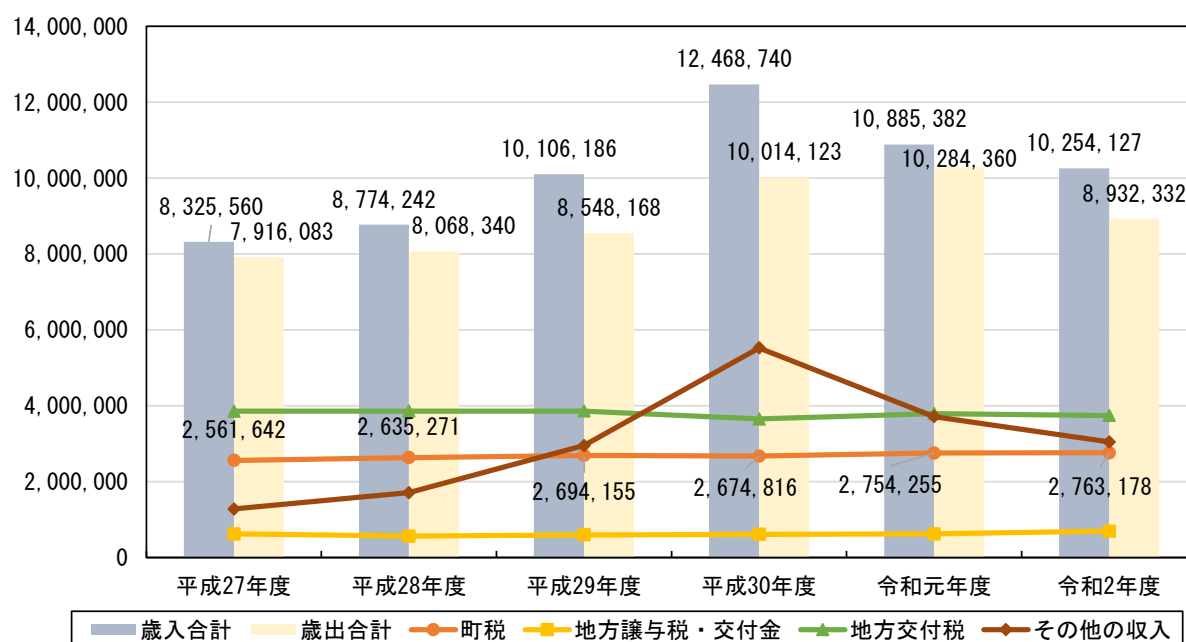
普通会計における歳入の状況をみると、自主財源の多くを占める町税収入は平成27年度が約25億6,164万円で令和2年度が約27億6,317万円と増加で推移しています。また、ふるさと納税寄附金は、令和3(2021)年度実績で約27億9,386万円の寄附金額となっています。

歳出については、年々増加傾向にあり、今後、当面コロナの影響は避けられず、また生産年齢人口が減少する中で老年人口は増加傾向にあるため、社会保障に係る負担が高くなることが予想されます。加えて、公共施設の更新・改修費用などの増加が予想されます。

地方自治体の持続可能性を確保するために、より効率的な行財政運営が求められており、行財政改革や自治体間の連携などを進め、限られた資源を有効に活用する取組が必要となっています。健幸のまちづくりを継続的に進めることで、医療費等の歳出の減少・適正化を図るなど、施策間の連携を高めることを通して、長期的な視点で歳出を削減させていく取組が必要です。

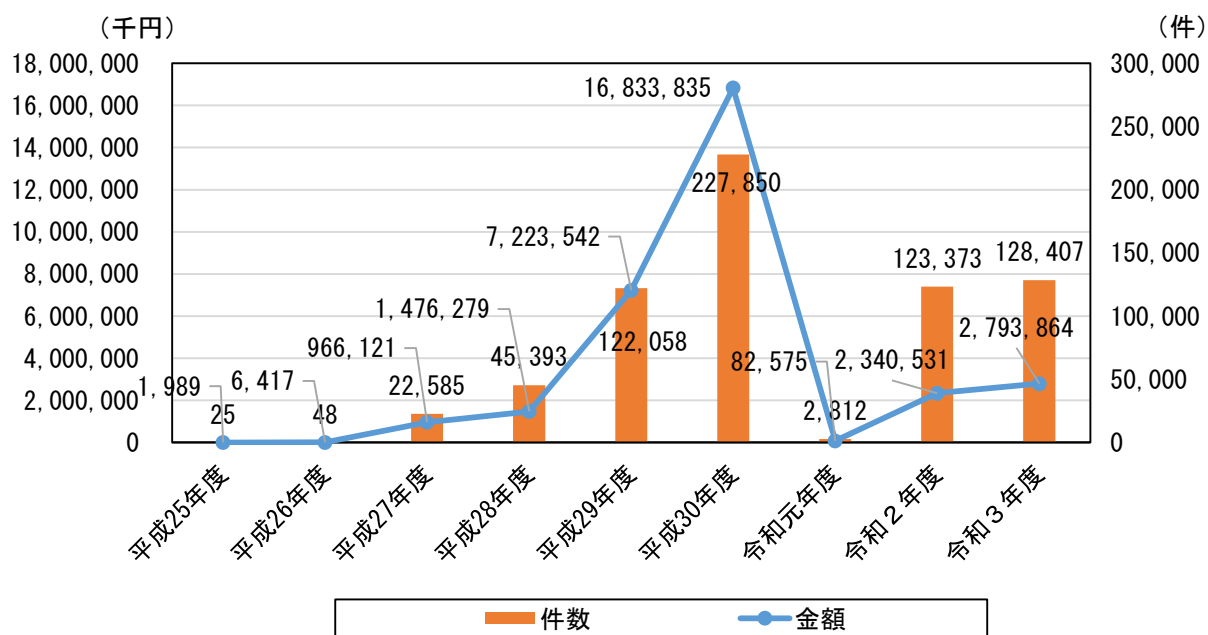
また、情報公開に努め、コンプライアンスの強化を図ると共に、住民が行政活動を知ることができ、積極的に参画できる体制づくりの推進が求められています。

■ 自主財源による歳入（歳入別）と歳出（単位：千円）



出典：財政状況資料集

■ふるさと寄附金額と受入件数



出典：ふるさと納税に関する現況調査結果

2 人口推計

令和2年3月に策定した、「第2期みやき町人口ビジョン」では、平成27（2015）年までのデータを用いた国立社会保障・人口問題研究所の推計値に、独自に推計した令和2（2020）年の推計人口値を用いて補正し、本町が独自に設定する各種の条件（パターン）に基づき将来人口推計を行いました。

このたび、令和2（2020）年の国勢調査の結果が公表されたことから、令和2（2020）年実績値を踏まえ、将来推計を行います。

■推計結果人口

	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)	R37 (2055)	R42 (2060)	R47 (2065)
第2期人口ビジョン	25,278	25,117	24,729	24,229	23,679	23,049	22,501	22,041	21,644	21,249	20,777
本計画人口推計	25,278	25,511	25,186	24,721	24,198	23,588	23,047	22,596	22,218	21,839	21,390
0～14歳	2,998	3,337	3,440	3,258	3,006	3,079	3,159	3,195	3,224	3,253	3,259
15～64歳	13,945	13,258	12,690	12,554	12,464	11,889	11,299	10,860	10,624	10,821	11,071
65歳以上	8,335	8,842	9,056	8,910	8,727	8,620	8,589	8,542	8,370	7,765	7,060
(75歳以上)	4,077	4,501	5,393	5,794	5,731	5,385	5,179	5,219	5,315	5,318	5,075

※太枠は実績値

※「本計画人口推計」について、令和2年度国勢調査における年齢不詳については、補正係数を算出し、各歳別の人口に乘以、年齢不詳分を按分したうえで、推計を行っている。

■人口推計の条件（パターン）

	第2期みやき町人口ビジョン	本計画
基準年	平成27（2015）年	令和2（2020）年
推計年	平成27（2015）年～令和42（2060）年	令和7（2025）年～令和42（2060）年
概要	町独自で出生や移動に関して異なる仮定を設定	
出生に関する仮定	合計特殊出生率は、佐賀県『佐賀県における人口の将来推計（佐賀県人口ビジョン）』に準拠。 令和2（2020）年1.77、令和12（2030）年1.8、令和22（2040）年2.07に上昇したと仮定。	
死亡に関する仮定	国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠。	
移動に関する仮定	移動（純移動率）は、令和12（2030）年までは「30～34歳」から「70～74歳」で3%、「0～4歳」から「5～9歳」で1%上昇して推移すると仮定し、令和12（2030）年以降は、全世代がゼロ（均衡）に収束すると仮定。令和12（2030）年以降も、均衡したうえで、「30～34歳」から「70～74歳」で3%、「0～4歳」から「5～9歳」で1%は上昇するものとする。	

第3章 第二次計画における重点目標の振り返り

1 「健幸長寿」のまちづくりの推進

平成 29（2017）年度の本町の一人あたり国保医療費は 550,121 円で佐賀県ワースト 1 位であり、平成 30（2018）年度後期高齢の一人あたり医療費は 1,169,678 円でこの分野でも佐賀県ワースト 4 位となっています。本町は高度医療が充実した福岡県久留米市と隣接しており、急性期医療に関しては恵まれた受診環境にある一方、厚生労働省が推奨するセルフメディケーション（自身の健康に責任を持ち、日頃から体調管理を行う意識を高め、軽度な身体の不調は薬剤師等に相談しながら自分で手当てすること）の分野においては、一層の住民意識向上を図り、行動変容につなげていく必要があります。更なる医療費適正化に努めることは、町として喫緊の課題です。この観点から、本町では、平成 29（2017）年度より「メディカルコミュニティみやき」プロジェクトに着手し、以下の取り組みを進めています。

「市村清記念メディカルコミュニティセンター」の整備

公民連携による健康へのアプローチを図り、子どもから高齢者まですべての方の心と体の健康づくりを目的として、既存のプール施設である B & G 海洋センターを含めた健康づくりの拠点となる健康増進複合施設「市村清記念メディカルコミュニティセンター」を令和 3（2021）年にオープンしました。

予防医療の推進

予防医療の拠点である「市村清記念メディカルコミュニティセンター」に「健幸長寿」のまちづくりに向けた学びの場として「健幸大学」を設立しました。心身ともに元気でより充実した日々を送るため、さまざまなプログラムを準備し、健やかで幸せな「健幸長寿」を町民の皆様と一緒に目指します。

なお、修了生は、地域のリーダー的存在になっていただき、健康の普及をはじめ、社会貢献活動やワークショップなど自らのセカンドライフを幸せに過ごし、人間関係を広げていくことで楽しみながら、社会との関わりを深めていくことも目的としています。

また、各種設備・診断の充実を図るほか、トレーニングジムやプール、スタジオ等を活用した各種運動教室を開催し、健康につながる「習慣づくり」の支援体制を整えています。

町民全体のセルフメディケーションの意識の醸成のためには、施設への集客力を高めることが必要であり、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、各種教室・イベントを展開していきます。

2 子育て支援のまちづくりの推進

「子育てするなら、みやき町」として、平成 24（2012）年 9 月に「子育て支援のまち宣言」を行い、子育て環境の充実にに向けた取り組みを進めています。本町は、子育て世代にあたる女性の就業率も高く、共働き世帯の増加や核家族化の進行による子育てに対する負担の増大、子育ての孤立化等のさまざまな課題に対し、きめ細かな対応が求められています。

この観点から、本町では、第二次計画において、「子育て支援のまちづくりの推進」を重点目標に掲げ、以下の取り組みを進めています。

PF I を活用した子育て世代向け住宅の整備

平成 26（2014）年以降、集合住宅、戸建て問わず、PF I を活用した定住促進住宅整備事業を推進しています。

地域子育て支援拠点（児童館「こども未来センター」）の充実

多様化する保育ニーズに対応するため、みやき町児童館「こども未来センター」を中心に、子ども・子育て環境の充実に取り組んでいます。

子育て支援の充実

子育て推進事業、子育て相談業務、子育て支援事業、子育て広場の設置、放課後児童クラブの運営、いじめ・体罰等防止条例推進事業等、必要な支援を実施しています。さらに、通学支援バスの運行、子どもの医療費助成、給食費無料化等、子育て世帯に対する経済的な支援を推進しています。

このように、「子育て支援のまち宣言」を行った町として積極的にハード面、ソフト面、それぞれの面において子育て支援を行っていますが、近年の人口増加や共働き世帯の増加等により待機児童が発生しており、町を取り巻く環境の変化に対応できていません。また、病児保育や病後児保育へのニーズの高まり、医療的ケア児への対応等、新たな課題も発生しています。

Ⅱ 基本構想

第1章 まちづくりの基本理念

めまぐるしく社会が変化する中で、みやき町がこれからも活力にあふれ、賑わいのあるまちであり続けるためには、わたしたちのかけがえのない財産である、住民同士の強いつながり、豊かな里山・田園景観、水辺環境、先人によって培われてきた暮らしのぬくもりと歴史・文化を守り、活かしていくことが大切です。

みやき町は、こうした「これまでのみやき町の魅力」に磨きをかけるとともに、「新たなみやき町の魅力」を創出し、誰もが住み続けたいと思う、魅力あるまちの実現に向けて、次の基本理念を掲げます。

未来に躍動する「共感」「協働」のまち

住民の「笑顔」、人と人がつながる「優しさ」、それを活かす「創造」。この3つの視点から、未来の「まち」をつくっていきます。

すべての人が個性と能力を発揮することができる「地域共生社会」、次の世代に託すことのできる「明るい社会」を実現するためには、行政だけではなく、住民一人ひとりが地域に役割と責任を持ち、協働して地域課題の解決に向けて取り組む必要があります。

子どもから高齢者まで、安心して生活でき、活力や賑わいを実感できるまちづくりを進めるため、みやき町は、一人ひとりの多様性を受けとめ、人と人、人と地域がつながる「共感」を育むと共に、行政と住民、団体、事業者等の「協働」により、未来志向で力あふれるまちを目指します。

第2章 重点方針

基本構想に掲げる基本理念を実現するため、町と住民、また住民同士の「共感」「協働」により推進するまちづくりの3つの方針を掲げ、あらゆる分野で施策を展開します。

1 笑顔が見える 健やかなまちづくり

- ◇住民一人ひとりが生活習慣や運動に対する意識を高め、主体的に健康づくりに取り組むことができる環境を整えることを通して、誰もがいきいきと活躍できるまちづくりを推進します。
- ◇スポーツや文化活動を通じて体と心を健やかに保ち、笑顔で暮らせるまちづくりを推進します。
- ◇住民一人ひとりが景観・歴史・文化などを貴重なものだと受け止め、進んで継承・維持できるような環境を整えることを通じて、豊かな町の魅力に包まれ、心も健康を感じることができるまちづくりを推進します。

2 優しさあふれる 心豊かなまちづくり

- ◇未来を担う子ども達が生まれ・育ち・社会に羽ばたくまで、明るくのびのびと成長できる子どもやその養育者を地域全体で支援できるまちづくりを推進します。
- ◇地域間・世代間等、さまざまな人が集まり、交流できる地域づくりを推進することを通して、コミュニティを再創造し、人と人の温かみのあるつながりを大切にしたまちづくりを推進します。
- ◇住民一人ひとりが、その多様な存在のまま尊重され、各々の違いに対して寛容となれる地域づくりを推進することを通して、思いやり、支え合うまちづくりを推進します。

3 住民が創る 住み続けたいまちづくり

- ◇「自分が暮らす地域は自分たちが協力して守る」という防災・防犯に対する意識を高め、日々安全に配慮できる環境を整え、いつまでも安全・安心に暮らせるまちづくりを推進します。
- ◇「ひと、インフラ・空間、技術」等、地域にあるさまざまな資源が最大限に活用され、常に新たなアイデアが出され、実現される環境を整えることを通して、生活や産業などのあらゆる分野で明るい未来を感じることができるまちづくりを推進します。
- ◇町と住民がそれぞれの役割と責任を担い、まちづくりのパートナーとして、住民の知恵と力を活かした「住民が主役」のまちづくりを推進します。

第3章 目標人口

第2期みやき町人口ビジョンでは、令和12(2030)年は24,229人、令和17(2035)年は23,679人と24,000人を下回るような推計になっていましたが、様々な定住対策を実施してきたことにより、令和2(2020)年の国勢調査人口は25,511人となり、人口ビジョンの令和2(2020)年推計人口25,117人より約400人増えました。

そのため、令和2(2020)年度の国勢調査の結果をもとに将来人口の推計を行ったところ、令和12(2030)年では、24,721人、令和17(2035)年では、24,198人となりました。

基本理念の実現にむけて本計画を着実に推進し、並行して「みやき町人口ビジョン」、「みやき町総合戦略」を遂行し、継続的に地域創生を図っていくことで、本計画の目標人口を令和14(2032)年に24,500人以上とします。

■人口推計

